

1. 基本精神・学校教育目標

私たちは、『地域の期待に応え、地域から信頼される学園』として、新しい時代に、『志と誇りを持って、いきいきと生きる人間』を育成します。

2. 学校像

礼節を重んずる進学校

- ◇学力を伸長する
- ◇豊かな人間性を育成する

3. 運営理念

輝く 生涯にわたって生きて働く力をつける
 人格の陶冶 高い志と誇り 自立・自己成長・社会貢献

↑
 極める 探究し 特性を発揮する
 学力の伸長 豊かな情操と強固な意志 健やかな身体・運動能力

↑
 徹する 集中し 磨く
 知・徳・体のバランスのとれた教育 基礎基本の徹底 自律・礼節

4. 運営目標・評価項目・達成状況

評価基準: 目標に対する達成率で次のように評価する。
 5:100%以上 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満

運営目標	短期運営目標	本年度実行計画	評価指標	前年度	本年度		評価	運営目標の達成状況
				実績値	目標値	実績値		
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・高い学力の育成 ・学力向上に向けた組織的・計画的な指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修や教科会議(週1回)、授業研究(年3回以上)等を定期的に行うことを通して、課題発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを重視した授業を推進するとともに、授業はもとより全ての教育活動(学校行事、部活動など)において、アクティブラーニングの推進を自覚的に行う。 ・「教室のグランドルール」を実践し、中学校で策定してある「生徒につけるべき力」を育成する。 	学習指導に関するアンケート	97%	93%	97%	5	校内研究授業を英語・数学・理科で実施した。中学部会で国語・英語・数学を中心とした学力向上について検討し、学習における方針・効果を確認しながら日々の授業へ展開した。また、各教科で実践した取組を教科横断的に共有し、新たな実践に繋げるよう心掛けた。教科横断的な総合学力を測るものとして進研学力推移調査を導入し、その結果も中学部会で検討、共有した。昨年度から実施した本校教育活動に関するアンケート調査(以降、アンケート調査)で、「授業に興味をひき、理解しやすいように工夫している先生」の項目では100%、「学力がつくよう熱心に指導してくれる先生」の項目では93%が肯定的に評価しており、学力向上の取組に対する高い評価を得ることができた。中高6年間を通じた指導の確立を目指し、生徒の進路実現のために高等学校との連携強化を継続していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・わからない箇所はその日のうちに理解させることを毎日の目標とする。授業の充実や、単元ごとの補充授業・個別指導を徹底する。 	実施状況	90%	88%	97%	5	各学年少人数を生かし、一人一人を丁寧に指導する授業を進めるとともに、数学と英語を中心に習熟度別授業・TT授業を行った。また、早朝や放課後に個別の補充授業を数学・英語科において実施し、伸び悩んでいる生徒の指導にあたった。また、朝のSHRを利用して英語・数学・国語のプリント学習を行い、学力向上を図った。アンケート調査での、「担任の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる」の項目では97%の承認を得ることができ、学力向上に向けて組織的・計画的な指導ができており高い評価につながった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・3点固定の日常的な取り組みや授業規律の確立、基礎基本の徹底学習、学習方法の習得などを通じて学力の向上を図るとともに、学びに向かう姿勢を確立し、自学自習の態度を養い、自主的な家庭学習の充実させる。 	模擬試験偏差値	進研模試平均偏差値51以上18% 全国総合学力調査Lv3が39%	進研模試平均偏差値51以上30% 全国総合学力調査Lv3が40%	進研模試平均偏差値51以上41% 全国総合学力調査Lv3が62%	5	新型コロナウイルス感染症対策による休校措置等は実施されず、授業時数と学習の進捗を確保することができた。進研学力推移調査では3年次偏差値51以上の生徒の割合が昨年度の18%から41%へ大きく向上した。また、全国総合学力調査でも3学年の教科融合型の到達レベルLv3以上は62%であり、昨年度の39%から大きく向上した。今後も大学入学共通テストを見据え、基礎学力と思考・表現力のバランスを考えながら、各教科や中学部会などで指導法等を検討し、教育実践を進める。
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「7つの習慣」による豊かな人間性の育成 ・社会で力を発揮する役立つ人間力の育成 ・感動ある豊かな体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるリーダーシップ教育の一環として「7つの習慣」を継続実施し、日常の教育活動の様々な場面において「7つの習慣」の活用を図る。自分固有の目標をつくり実践する。挨拶、礼節等を基本において心の育成を推進する。 	学校全般に関するアンケート	81%	90%	93%	5	7つの習慣の授業で設定したチャレンジへの継続的な取り組みを行うため、各自のチャレンジを常に見る場に掲示した。チャレンジカップへの全員参加と、チャレンジ内容の質を向上させるために、クラス内でのチャレンジ発表会を実施した。生徒が日々チャレンジに向かうために学校全体の雰囲気醸成を次年度も継続する必要がある。主体性の発揮やチャレンジへの行動力は本校の生徒につけるべき力となっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校独自行事(大山登山、しまなみサイクリング、カッター、3年周期)では3年生を中心にリーダーシップの発揮を促し、企画・準備・運営を行う。また、ええじゃん、音楽コンクールでの協働での表現力を養うことや自己表現の場面での経験を積ませることで社会で力を発揮する生徒を育成する。All English授業(TEIE)を基盤にし、コミュニケーション能力を養い、国際交流に積極的に参加し将来世界に羽ばたく生徒を育成する。 	行事等に関するアンケート	90%	91%	79%	3	中学1・2年生でAll Englishによる授業(TEIE)を実施した。TEIEの実践も2年目になり、生徒も授業スタイルに慣れ、積極的に参加しており、英語を聴き、話す経験を重ねることで会話力の向上に繋がっている。TEIEは本校の特色教育の一つとして定着している。中学2年生は、尾道ふるさと就職促進協議会(尾道市商工課)が主催し、高校の就職希望者が参加して本校新体育館で実施した「企業ガイダンス」に参加した。地元企業を知る契機となり、自分自身の将来を考える参考になった。中学3年生ではチャレンジカップの発表会の準備を行い、その発表をHRで実施し、言語活動の機会を増やしている。今後は中学校全体での発表会の実施など発展的に継続して、1人1人が発表する機会を増やして相互理解を深め、自信をつける場としていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭等の学校行事、その他伝統文化に触れる教育活動などを通して知・徳・体・美のバランスのとれた教育活動を行い、豊かな心を育成させる体験等を充実させる。STEAM教室を新設しICT機器を使った授業や探究活動などの多岐にわたる学習活動で利用し、教科横断的に学ぶ力を養う。 ・読書で年間30冊以上読み、言語活動の充実を図る。 	学校行事等に関するアンケート	90%	96%	82%	3	尾道みなど祭りの「ええじゃんSANSAN」がコンテストは、業者による動画撮影を行い作品を応募する形式で行われ、本校は「チームワーク賞」を受賞した。合唱コンクールは中止となったが、生徒が主体で考え作り上げた踊りや各パートリーダーを中心に放課後練習などを行う姿勢は「尾中」らしさ(スタイル)を築き上げる伝統的活動になりつつある。それは、全校生徒(合唱の本番以外でも)が参加すること、高学年が主体的に計画し活動することを通して、自己および仲間へのリーダーシップを成長させ、表現するのにも有意義な場であった。教育活動に関するアンケート調査で、「文化祭や体育祭などの学校行事が活発で、協力し合う大切さなど学ぶことが多い」の項目では82%の生徒が肯定的に評価している。読書アンケート調査では平均年間30冊以上本を読み、言語活動の充実を図ることができた。
学校体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくり ・生徒募集の拡大 ・学校組織の機能化及び人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「萌黄」「学級通信」を継続発行して保護者と連携を図る。「スタディライブ」、「フォーサイト」を積極的に活用して個々の目標にしっかりと取り組むことで、学級目標、中学校目標、学校目標を達成する。 	授業参観等参加率	81%	83%	67%	3	全校および学年別に授業参観を3回実施し、実施できなかった公開学習発表会の代替として、本校の特色教育(7つの習慣)、お茶、箏、TEIE)の発表を学年別に行うとともに、一般にも案内して授業公開を行った。学校行事が制限された中、Facebookなどを利用して、保護者や塾、地域などへ本校の特色ある行事をPRすることに努めた。授業参観日は参加率を考慮しながら平日と土曜日に開催した。各学級通信を複数回発行した。高校と比較し、保護者が生徒の学校生活を参観し、来校する機会も比較的多いため、担任や教員とも面談できる場面も多く、保護者との連携は丁寧にしており理解を得ている。アンケート調査について、今年は生徒・保護者からの要望もあり、デジタルデバイスを利用し匿名で実施したが回答率が大きく下がった。回答率の回復策が今後の大きな課題となった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・行事等があった時などはHP等をすぐに更新するなど、家庭、地域に本校の教育内容・存在感を広くアピールする。 	実施状況	100%	100%	100%	5	体育祭は天候に恵まれず、一部競技のみ実施することができた。芸術祭、カッター訓練、合唱コンクール等の行事は中止になった。非公開の文化祭では各クラスが企画を実現できた。修学旅行は行先を東京から徳島に変更し、2泊3日で実施することができ、その様子は学校ホームページ、Facebook等で発信をした。「7つの習慣」の授業については、各家庭に対し刀通信(Classi利用)で毎時間の内容と生徒の感想を伝えることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に全教員が自覚的に、本校教育の特色や生徒の成長の様子など魅力と強みを周知・発信することで、教育方針・内容に共感し目的意識を持った新入生を2クラス確保する。 	入学者数	48名	43名	36名	3	令和4年度入学試験は受験者数45名、入学者数は36名であった。令和3年度は受験者数61名、入学者数48名であったため、受験者数、入学者数ともに減少したが、公開授業や公開模試を実施するなど広報・募集部と連携して具体的な授業の取組みと成果を小学校や塾、地域に発信・アピールした。今後も在校生の学力伸長や教育活動の充実等で成果を上げ、受験者、入学者の増加につなげていきたい。

注)「本校教育活動に関するアンケート」の調査方法を紙面によるアンケートからインターネット(classi)を利用したアンケートに変更した結果、有効回答率が71.3%から27.2%に低下した。有効回答率の向上を図るため、今後、アンケートには回答することを習慣付けていきたい。

2月に実施しました本校教育活動に関するアンケート結果についてご報告します。

アンケート回答数（生徒） 高等学校 163名 中学校 28名

アンケート回答数（保護者） 高等学校 343名 中学校 63名

本校教育活動に関するアンケート 項目

- Q1 授業で興味をひき、理解しやすいように工夫している先生が多い。
- Q2 学力がつくよう熱心に指導してくれる先生が多い。
- Q3 学習の評価は適切に行われている。
- Q4 将来の進路(進学・就職・文理選択など)に向けた指導・支援が十分に行われている。
- Q5 担任の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる。
- Q6 挨拶や身だしなみなど学校生活における担任の先生の指導は納得できる。
- Q7 文化祭や体育祭などの学校行事が活発で、協力し合う大切さなど学ぶことが多い。
- Q8 生徒会活動が活発で、生徒と共に熱心に取り組み指導してくれる先生が多い。
- Q9 クラブ活動が活発で、先生方の熱心な指導に満足している。
- Q10 教室をはじめ学校の施設設備は、授業や生活がしやすいように整備されている。
- Q11 海外校との国際交流が活発でグローバル教育が充実している。
- Q12 7つの習慣Jをはじめ私学ならではの特色ある教育をしっかりと受ける機会がある。
- Q13 学校に通うことが楽しい(生徒は学校へ行くのを楽しみにしている)。

中学校

